



食育活動の一環として

幼稚園で麦刈りを体験

6月8日(月)、宗頭幼稚園で麦刈りが行われました。

これは、食育活動の一環で行われたもので、この日、園児と保護者ら約15人で麦刈りを行いました。園児は自分の背丈ほどある麦を保護者と協力して1束ずつ丁寧に刈り取り、ひもでくくった後、鉄棒にかけていきました。

体験した園児は「協力して麦をとったのが楽しかった」

など感想を話し、園長は「昨年のほたる祭りでも麦わらを使ってほたるかごを作ったことをきっかけに、麦の栽培に取り組んだ。普段食べているものがどのようにできていくかに興味を持つきっかけになれば」と話しました。

みんな元気に登校

小中学校の教育活動再開

5月25日(月)、新型コロナウイルス

イルス感染症の影響で4月17日から休業となっていた市内の小中学校の教育活動が再開され、子どもたちが元気に通学する姿が見られました。

油谷小学校では、全校児童がひとりの欠席者もなく登校し、久しぶりに会う友達や先生との再会を喜びました。



▲マスクの着用、換気などしながらの再開

来年も美しい花を咲かせるために

シヤクナゲの花摘み作業

5月31日(日)、俵山シヤクナゲ園で花がら摘みが行われました。

この俵山シヤクナゲ園は、市内の人気観光スポットの一つとなっており、シヤクナゲは開花後、花がらが残った状態にしておくことで次の年に花のつきが悪くなるということとで、毎年この時期に花がら摘み作業が実施されています。



▲地区住民ら約30人が参加



▲園児らにとって麦刈りは初めての体験



▲収穫した麦は食育活動に使用していく予定

一から十まで関わることが魅力的

おおた まい
大田 麻衣さん (アグリながと／深川湯本)

一般社団法人アグリながとではじめての女性従業員として毎日汗を流す大田麻衣さん。

3年前に知人の手伝いとして農業に関わるようになり、今年2月からアグリながとで農業を学んでいます。

現在、アグリながとが管理している約6ヘクタールの田畑で田植えや麦の収穫、大豆を植えるなどさまざまな作業をこなす。将来は農業法人に就職することを目標に日々活動しています。



しゅん
旬な人

大田さんは「重たいものを持つことなど、女性として難しいところもありますが、トラクターなど大型機械を運転することが楽しいです。また、農業では自分の頑張った成果が収穫物として形となります。その作業

の一から十まで自分が関わることができるとは、すごく魅力的だと感じます」と語りました。アグリながとでは農業に興味のある人材を募集しています (一般社団法人アグリながと



▲トラクターを運転して大豆をまく

地元の美しい海を守るために

大越の浜を清掃

6月10日(水)、通小学校の児童が大越の浜の清掃活動を行いました。

この清掃活動は毎年実施しており、昨年にはこの長年の取組が評価され、国土交通大臣賞を受賞しています。

この日、通小学校の全児童16人と教員が参加し、昼過ぎに通小学校から大越の浜に移動した後、清掃活動を実施。

児童はグループに分かれて自分の持ち場のごみを集め、合計10袋を回収しました。その後、きれいになった海岸で記念撮影を行い、ごみを小学校へと持ち帰りました。

通小学校6年の河野太亮さんは「毎年、ペットボトルなどのごみがたくさんあるので増えないように浜を利用してほしい」と話しました。



▲いくつかの班に分かれて清掃活動を実施



▲回収したごみを通小学校まで運ぶ